



つるがしま里山サポートクラブ 通信

第5号
2021. 10. 01
発行責任者
小澤邦彦
編集責任者
杉山行汪

里山サポートクラブの展望 理事 牛島 哲雄

国連はSDGs（持続可能な開発目標）を提唱し2030年までに対策を講じなければ、地球には人類が住めなくなってしまうと警告しています。具体的には地球温暖化、再生エネルギー、脱炭素、食糧、水、廃プラスチックなどの問題に対し早急に取り組み、解決することが必要だと叫んでいます。

当クラブは市民の森の整備、草刈り、間伐、河川の清掃、竹林整備がメインの活動ですが、植物調査やホタル育成、小彼岸桜育苗もしています。また、ツリーイングや門松製作、木工教室のイベントを行うことにより、子供たちに森の大切さ・不思議さ、多様性のある自然を肌で感じてもらうような場を提供しています。この自然体験が、経験が人間形成において子供たちに良い影響を与えると確信しています。

我々は次世代の人たちに緑豊かな地球を残すため行動し、森や水資源を復活させることが、この地球を救う一歩になるのではないかと考えます。今年になって従前の市民の森3ヶ所に5.5haの太田ヶ谷の森が追加され、地元団体、市役所とともに管理するようになりました。先日のイベントでは子供たちに40本ほどの記念植樹をしてもらい、草むららが30年後には壮大な森林になると言い含めています。これからも継続的に子供たちが植林できるように企画し、苗木の手配や植林地の整備等、準備をする段取りを始めました。（SDGs 目標 15）親御さんたちにも子供たちと未来の地球を残すためにこの活動にご協力をお願いするとともに、一緒に行動されますよう参加をお待ちしています。



里山サポートクラブに出会って 風祭 みさ子

里山サポートクラブとの出会いは、まだ会社勤めをしているとき、社の上司から「五味ヶ谷の森でたけのこ掘りがあるよ！」と教えて貰ったのがきっかけです。当時は3～4kmある職場まで徒歩で通勤していました。暑い時も寒い時も季節を感じながら、木や花を眺めて歩きました。会社までを3～4kmの幾つかのコースをつくり、その一つが五味ヶ谷の森でした。親しみのある場所で参加したタケノコ掘りでした。それがきっかけで他の行事にも何度かに参加しているうちに会員になり、やさしい仲間の皆さんの足手まといになりながら現在に至っています。森の整備やイベント等で自然に触れる楽しさや守らなければならないこと等を一緒に学んでいます。今の状況はコロナ禍で色々なイベントが中止になってしまっていますが森の整備活動は進められています。その整備活動のさなかにも、地球温暖化の影響なのでしょうか、世界の各地では大雨で大変な被害を受け人の命や家が失われています。そうした被害は他人事ではなくいつ自分に降りかかってくるか、それは明日かも知れません。生活の中で少しでも自然に逆らわないようにしなければならぬと思っている処です。次世代につなげていけるように、イベントが少なくなっている中でも里山の活動を知り合いの若いお母さんたちに伝え、参加した親子に伝えて行けたらなーと思っています。

6月～9月の主な活動

6月～7月活動

高倉の森にて里山体験会には多数の参加者が集まり森は大いに賑わいました。恒例の藤小屋外学習協力。その後はコロナ禍で計画していたボランティア体験会、里山体験会は相次いで中止し森の整備作業に専念。デ イ・ビス moi でバンブー・パン焼きの指導を行いました。



8月～9月活動

コロナ禍にもめげず里山の整備活動に専念です。高倉の森、五味ヶ谷の森、太田ヶ谷の森の整備、資材倉庫の整備を行いました。9/26に太田ヶ谷の森で行われる植樹祭に向けて準備作業は、30年後の森の姿を描きながら、これから植樹していく苗木の苗床作り、ビオトープの生物、蛍の乱舞する川作り、枯れた巨木の伐採、散策路の整備等々地道な作業を行いました。



6月～9月 実施

- 6/ 5(土) 藤金の森整備
 - 6/1-14 環境月間:市庁ビルに展示
 - 6/ 8(火) アペルト自然学習支援
 - 6/12(土) 高倉市民の森里山体験会
 - 6/22(火) 藤小学校屋外学習協力
 - 6/27(日) 太田ヶ谷の森整備
 - 7/17(土) 太田ヶ谷の森里山体験会
 - 7/21(水) 会員親睦バーベキュー
 - 7/22(木) デイ・ビス moi パン焼き協力
 - 8/ 7(土) 高倉の森整備
 - 8/28(土) 五味ヶ谷の森整備
 - 8/31(火) 五味ヶ谷・高倉にカマキリ放虫
 - 9/12(日) 五味ヶ谷植樹用苗床作り
 - 9/15(水) 倉庫整備・植樹祭準備
 - 9/26(日) 太田ヶ谷の森植樹祭
- ### 10月～12月 計画
- 10/ 6(水) 藤金市民の森整備
 - 10/16(土) 太田ヶ谷の森整備
 - 10/30(土) 五味ヶ谷の森整備
 - 11/ 6(土) 五味ヶ谷の森里山体験会
 - 11/21(土) 大谷川クリーン大作戦
 - 12/ 8(水) 五味ヶ谷の森整備・忘年会
 - 12/25(土) 門松教室(五味ヶ谷市民の森)

太田ヶ谷の森の活動

柳川 豊彦

私の出身は北海道の美唄で自然しかない田舎でした。自然のない東京に憧れて40年働いてきました。定年退職となり時間がある中、たまたま里山サポートクラブに誘われ活動することになりました。鶴ヶ島には山も、大きな川もないので子供たちが自然に触れ合う機会を我々里山クラブが作っていくことはとても大事なことだと思っています。緊急事態宣言が出て8月は鶴ヶ島市内の図書館、児童館、市民センターは全て閉鎖されています。コロナの新規感染者数も収束しないので里山クラブが計画しているボランティア体験会、里山体験会の募集も断念せざるを得ない状況ではありますが、鶴ヶ島の自然(里山)を残していく里山クラブの活動に、これからも多くの人が参加できるように活動していきたいと思います。

令和3年から活動の拠点として高倉の森、五味ヶ谷の森、藤金の森に次いで4番目の太田ヶ谷の森が加わり、7月17日(土曜日)にはこの森を活動拠点としている大谷川源流の会の協力を得て「太田ヶ谷の森里山体験会」を開催し、大変暑い日でしたが多くの市民が参加して呉れました。竹細工(竹トンボ・竹けん玉・竹水鉄砲・竹馬など)、川魚展示、カブトムシ配布、ハンモック、綱渡り、植樹のイベントを行い、会員にはカレーの昼食を大森さんが提供してくれました。

写真はこのイベントの為に事前に行った6月26日の森の整備活動です。刈払機6台とハンマーナイフ3台を使い、広い敷地の草刈りを暑い中、会員が汗だくになり整備しました。



里山保全の奨めと「持続可能な開発目標」SDGsの推進。12つくる責任つかう責任と15陸の豊かさも守ることを目指す。NPO 法人つるがしま里山サポークラブ。

里山は縄文時代から、私達の御先祖の生活の基盤として、里山が関わって来たのです。そして、里山の恵みに支えられた生活文化はごく最近まで各地で受け継がれてきました。ところが、現代社会では里山などの森林に接することは非日常的な生活になりました。一方でさまざまな地球温暖化、環境問題が深刻化している現代社会は広域化してきています。このような中で、里山と結びついた伝統的文化は自然との共生、共存を志向する文化であることから、当NPO法人つるがしま里山サポートクラブでは地球温暖化CO2の削減のために落葉樹などの苗木の植樹等今後、私たちと自然との関係のあるべき姿を示すものとして注目されてきています。環境問題教育においては「関心」「知識」「態度」「技能」「評価能力」「参加」が目標とされると共に目標を達成するためには里山に入り親しみ→「気づき」→「知る」→「行動する」ことが大切です。里山を学ぶのではなく、里山に学ぶことをおすすめしたいと思います。「自ら学び、自ら考え自主的に判断し、よりよく問題を解決する素質や能力を育てることにより、コミュニケーション、能力拡充、基礎的生活能力の向上、感情の安定化など里山にはあります。それにより人の最大能力、五官を通じ目・耳・鼻・舌・皮膚など働かせ外界の物事を直に感じると感覚は学校、教室では学ぶことのできない場所それが里山のいやし効果ではないでしょうか。就学前の子供と小中高大の学生諸君に自然の中で里山に学び遊んで触れ合い学ぶそれが里山教育だと思います、私は緑の中で健康づくりを目指したいと思っています、身近な里山を利用し伐採樹木等を利用して、原木シイタケ作りや休憩用場所としての「テーブル、ベンチ、イス、着替え等のバンブーハウス、などなどの製作を目指しています。また、現在学校林をもたない学校が増えています。身近な里山の環境を利用し学校や家庭では学ぶことのできない身体の平衡感覚や認知機能等のリハビリテーションの出来るのが里山ではないでしょうか。つるがしま里山サポートクラブは森林将来像の目標を見据え定めて取りくみ、森林整備、植樹、レク等を計画し作業に参加従事実施していますので、「自主管理型で森林所有者との信頼関係を構築しそれに基づき、目標とする森林管理を行なっています。」是非皆様の参加お待ちしております。

つるがしま未来の森づくり事業「記念植樹」の準備

つるがしま未来の森づくり事業「記念植樹」の式典が、9月26日(日)鶴ヶ島グリーンパーク内「太田ヶ谷の森」にて行われます。この式典に向けて当クラブが行ってきた地味な準備作業を紹介します。

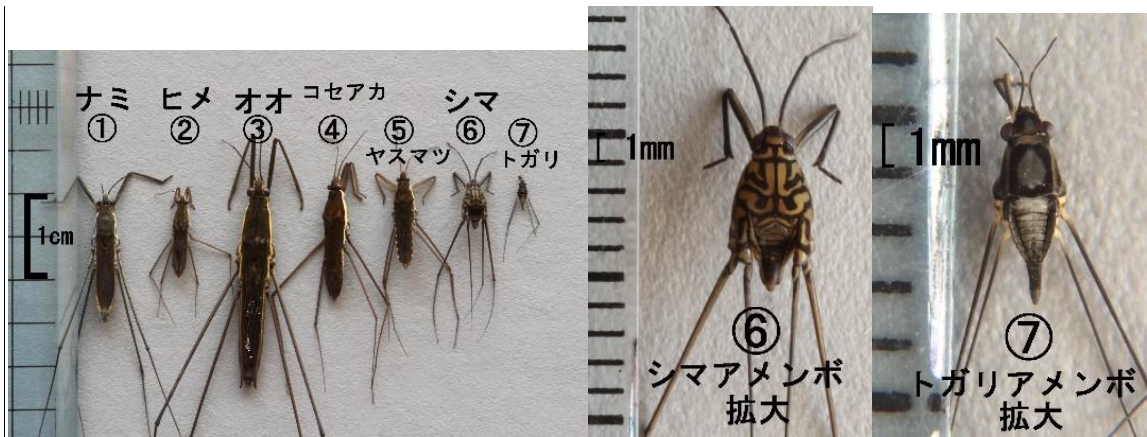
(植樹祭の様子は次号第6号(2022.01.01発行)にて紹介します)

- ◎ 8月31日 太田ヶ谷の森内のビオトープに放虫したゲンジホタル、ヘイケホタルの食料となるカワニナを坂戸市内の水田地帯脇の用水路にて8,000匹ほど採取し当森ビオトープと高倉市民の森内の飯盛川に放虫
- ◎ 9月12日 式典にて植樹する樹木と、今後順次植樹していく樹木の苗木を育てる苗床を、太田ヶ谷の森内に開墾し、杭打ちロープ張りを実施
- ◎ 9月13日 式典用樹木の調達
- ◎ 9月15日 森内の立ち枯れしている巨木(直径1m、樹高約20m)3本を伐採
- ◎ 9月24日 記念植樹の事前穴掘り、市民が植樹する苗木準備と植樹する牧草地の整備や準備、伐採した巨木の裁断等々



読者の方の中には“なんでアメンボウなの？アメンボウなんかつまらない！”という方がいるかもしれませんが、どうか最後まで読んでみてください。きっとアメンボウに対する見方が変わると思いますよ。太字で書いたところはキーワードなのでぜひ覚えてくださいね。

はじめに、なんとアメンボウは皆さんが嫌いなあの臭い虫“カメムシ”の仲間なんです。なのでアメンボウもセミやカメムシのような吸うための口を持っています。またアメンボウは表面張力により水面を移動できます。そして水面に落ちた虫を見つけて針のような口で刺し、体液を吸って生活しています(なので肉食です)。カメムシなので臭いのある液を出しますが、くさくはなく嗅いでみると少し甘ったるいような香りがします。体が長い棒のようなので“飴ん棒”と呼ばれるようになったようです。



ところで、アメンボウってどれも同じに見えますよね？でも鶴ヶ島には7種類ものアメンボウがいるんです。まずは①ナミアメンボ：一番普通について大きさは1.5cmで黒っぽい。②ヒメアメンボ：1cmくらいで小さく、茶色味があって足が短い。良く飛んで移動するので水溜りなどにいるのはこれ。③オオアメンボ：2.5cm近くもあり、特にオスは蜘蛛のように足が長い。埼玉県レッドデータブック（野生生物保護のための資料）では準絶滅危惧2型に指定されている貴重種です。④コセアカアメンボ：ナミアメンボと同じ大きさですが赤茶色で、やや山地を好む種類です。⑤ヤスマツアメンボ：コセアカに似ますが小さい。明るいところに出てこないで見つけづらいです。⑥シマアメンボ：ほかのアメンボと違い円い体でタイガースファンが好きそうな模様があります。流れのあるところにおいて、以前は運動公園周辺に普通でしたが最近では減っています。⑦トガリアメンボ：3mmくらいの超ミニサイズで泳ぐのがとても速く、動体視力を鍛えないと見つからない。2001年に発見された外来種のアメンボウで尻が尖っているのが名前の由来です。

以上、アメンボウについて簡単に説明しましたが、少しは興味が持てましたか？アメンボウは動きが早いのははじめは難しいかもしれませんが、まずはナミアメンボとヒメアメンボの見分けにチャレンジしててください。その後でオオアメンボを見つけたときは、きっと「ウワッ！でかっ！！」と思わず口にしてしまうこと請け合いです。

観察におすすめの場所：雷電池（かんだちいけ）は水深が浅く子供でも安心して観察できます。池でナミ・ヒメ・ヤスマツアメンボが、流れでたまにオオアメンボ、石橋の下を覗くとトガリが見られます。運動公園では7種類全部が観察できますが、滑りやすい場所があるので子供だけでなく必ず保護者同伴で行くようにしてください。

編集後記

新型コロナ蔓延により予定していたボランティア体験会や里山体験会が軒並み実施不可になり、学生、児童、市民との触れ合う機会が少なくなり残念です。とはいえ整備活動には何時でも参加下さい。通常の整備は地味な活動ですが無心にかく汗も又格別です。鶴ヶ島の自然シリーズ今回はアメンボウです。秋から年の瀬に向けた活動に注目下さい。ホームページ：<http://www.satoyamasupport.com/>